[dõk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F／ Siege : Oden Building 21-4 Higashi-Marunouchi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

N°.017 le 15 juin 1991 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

1991年度総会 盛会裡に終わる

記念講演にA．ブリュネ教授（立命館大）

三重日仏協会1991年度総会は、５月２６日 津市の洞津会館で約５０人の会員が参加して開催され、理事の改選をふくむ議案（別紙）を原案通り決定いたしました。理事は、吉原一真・内村瑠美子両氏がご都合で退任のほかは武田会長以下再任、ほかに新たに疋田敬志氏（三重短大教授）と宮崎由至氏（宮崎本店社長）が就任されました。

総会後、在日３７年の日本通で元フランス総領事、現在立命館大学国際関係学部教授のアンドレ・ブリュネ氏が、日本観や日仏関係などについて約一時間にわたって講演され聴衆に多大な感銘を与えました。（概要は２～３面に掲載）

ことしの le 14 juillet（パリ祭）は7月14日（日）に開催

詳細は別紙でご通知いたします

フランス総領事館からワイン１ケースのプレゼントがありました！

アンドレ・ブリュネ氏の講演（要旨）

アンドレ・ブリュネ氏はこの日とくにご多忙で、午後４時すぎに津に到着、講演終了後６時すぎにはレセプションの乾杯もそこそこに、近鉄で京都に発たれるというあわただしい日程でした。でも驚異的に巧みな日本語で、エスプリあふれるお話を展開され、聴衆一同笑いのなかに大きな感動を受けました。

私の前世は日本人？

ブリュネさんは、「津に来るのは初めてだが、三重県でこんな盛んな日仏協会が活躍していることに驚いた」と前置きされ、先ずご自分と日本の関わりについて述べられました。

＜私が日本に関心をもったのは、我が家にヨロイ兜や浮世絵などがあったからかも知れない。４７人のローニン（忠臣蔵）の話には、日本人がこんなにも seigneur に忠実なのかと感動したものだ。

ひょっとすると、私の前世は日本人だったのかな。（確証はないが。）

３７年前、船で日本にやってきて、横浜港が欧化されているのに仰天した。話に聞いていたスシを食べさせてもらったが、おいしくて「ひと目惚れ」ならぬ「ひと食い惚れ」してしまい、その後スシには眼がない。＞

日本人は親切・清潔・正確・整頓

日本が好きになり、３７年間も住み続けられたのは、日本人に四つの優れた国民性があるからだと、ブリュネさんは話されました。それは親切、清潔、正確、整頓だそうです。

＜もし靴屋さんで何足もはいて見て買わなかったら、フランスならどなられるでしょう。でも日本では「お気にいるのがなくてすみません。またどうぞ」という。

地下鉄に乗っても実に清潔。パリのメトロは悪臭が漂い香水が必要だ。かつてザビエルも日本人は清潔好きと言っている。

パーティなどにしても、準備が行き届いて、式次第、役割ぜんぶ決まっている。

大学の教授室の前には札がかかっていて「在室、講義中、帰宅、一時外出」がわかるようになっているのには驚いてしまう。

駅のアナウンスひとつを見ても、概して日本人はよく保護されていると思います。

クレッソン新首相は反日的

次いでブリュネさんはフランスと日本の関係に触れられました。

＜フランス人の日本に対するイメージはピエール・ロチの『お菊さん』の悪い影響

が第二次大戦のあとまで続き、ゲイシャ、フジヤマの域を出ない傾向があった。その後は工業製品の大量生産・安売りが日本のイメージとなり、かつてド・ゴールは日本の首相のことを『トランジスタのセールスマン』と毒づいたことさえあった。

そして日本は奇跡の経済成長をとげ『ジャパン・アズ・ナンバーワン』などと言われるようになる。財テク、ハイテクとバイオテクが特徴です。いま日米の経済摩擦は深刻だが、こんごＥＣとの矛盾が深まるでしょう。ＥＣの対日貿易赤字はアメリカを上回っているから。　クレッソン新首相もどちらかと言うと反日的です。

いまの日本は経済は強いが文化は弱く、国は金持ちだが国民は貧乏という感じがします。

「国際化」、自国の理解が前提に

続いて「国際化」という問題について…

＜「アンテルナシオナリザシヨン」というより「コクサイカ」のほうが簡単でよろしい。ヨーロッパでは１９９２年末に拡大ＥＣが発足するくらい　国際化がすすんでいるのだが、外国と遠く海を隔てており、歴史的にも長い鎖国の経験をもつ日本ではこれは簡単でない課題でしょう。

国際化の前提は、自らの文化や伝統を理解することだと思う。海外旅行もけっこうだが、駆け足でなく、少なくとも４～５週間はかけて、その国の家庭の生活を見てきてほしいものです。＞

移民労働者の受入は難しい

さらに日本がかかえている困難な問題として、老齢化、労働力不足、教育などについてのべられましたが…

＜移民労働者はフランスに２００万人いて宗教・風俗のちがいなど問題は多い。でも旧植民地の人たちが中心で、それなりに適応しやすいのです。日本も最近労働力不足で移民がふえ、その数１０万人とも言われる。でもこの問題は日本ではフランスと違つて、かなり難しい条件があるように感じます。＞

最後にブリュネさんは、日本は暮しやすく、環境問題や南北問題などを解決すれば将来はバラ色だとしめくくられました。

そして司会者の「少々ほめすぎでは？」の言葉に、「もう一時間あれば、どんどん批判もするのですが」と答えられ、満場爆笑のうちに講演を終えられました。

FELICITATION

三重日仏協会のメンバーで、フランス語入門講座の講師としておなじみの渡辺芳敬先生が、このたび権威ある「群像」新人文学賞（評論部門）を受賞されました。会員一同こころより祝意と敬意を表したいと思います。

以下、中日新聞より抜粋。

群像新人文学賞を受けた 渡辺 諒さん

本年度の群像新人文学賞（評論部門）に選ばれた渡辺諒（本名・芳敬）さん（三）＝津市上浜町＝は、三重大学人文学部助教授（フランス語）。「研究と抵評（評論）の区別は難しく、私のような研究者が評論作品で公募形式のコンクールに応募したこと自体、珍しいことかも。意外という受け止め方もされた」と苦笑する。

当選作の「異邦の友への手紙――ロラン・バルト『記号の帝国』再考」は、冒頭で映画監督小津安二郎へのオマージュ（賛歌）ともいうべきヴェンダースの映画『Tokyo-Ga』を取り上げ、ヴェンダースという外国人監督から見た日本理解を例に「日本文化を理解することとは何か」を問い掛ける。

『Tokyo-Ga』はフランス留学中にパリで見た。その時の印象をまとめた文章がまず手元にあった。思想家ロラン・バルトの日本

異文化、自文化とは

西欧からの日本論を観察

論、外国語と母国語、自文化と異文化について考察を広げ、全体を異国を旅する友人への便りとする構成にした。たまたま群像新人文学賞の作品募集を知り、作品を送ったという。

大学時代はヴァレリーを研究、文学言語の問題から出発して哲学者メルロ・ポンティの言語身体論へと研究の興味は膨み、文化人類学や精神分析の分野へと関心は広がる。「厳密な意味の研究論文と、自分が思いのままを書く文章とはやはり区別が必要かと思い、筆名で応募しました」

映画はよく見る。パリ留学時代は市内の映画館、シネマテークに通った。「ヴェンダースは『パリ、テキサス』『ベルリン・天使の詩』など日本で人気のある映画監督ですが、私自身はあの感傷性が気になって好きではないんです……」とも。

早稲田大学大学院修士課程の後、パリ第一大学博士課程を修了して帰国、三年前から三重大学で教えている。（善）

CINEMA

☆毎日曜日フランス映画を上映

〈写真のエコールドパリ展〉開催中

三重県立美術館

詳細は別紙を御覧下さい。

☆〈Cyrano de Bergerac〉の上映

秋にずれこむ

前号で7月頃上映とお伝えした津シネマフレンズ主催「シラノ・ド・ベルジュラック」は、大都市で好評続映のためプリントが足りず、秋まで延期となりました。日仏協会会員の無料鑑賞を検討中。

納涼ポップ上映会

ロミュアルドとジュリエット

三重県内初公開

「赤ちゃんに乾杯！」の女流監督コリーヌ・セローの最新作

楽しいフランス・コメディ!!

8月12日(月) ①2:00 ②4:30 ③6:45 会員900円

会場 三重県文化会館ホール（丸之内）

主催 三重優秀映画鑑賞会（☎28-2755）

三重国際交流財団が発足

三重県レベルで幅広い国際交流活動を推進しようという目的の『財団法人三重県国際交流財団』が5月28日発足しました。事務所は津市桜橋3の県津庁舎に置き、サロンもありますので国際親善に利用してほしいと呼びかけています。理事長は田川知事、副理事長に武田本会会長が就任されました。